

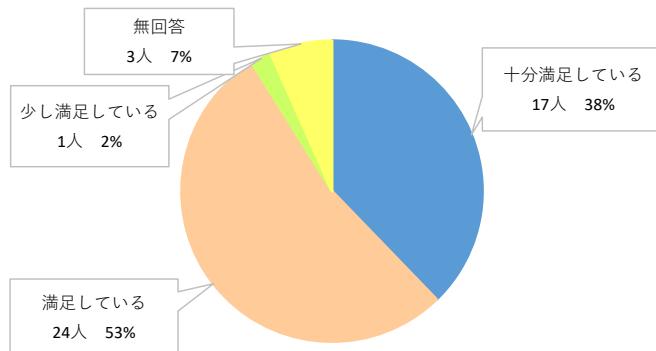
宇佐市在宅医療・介護連携多職種研修会アンケート結果
(看取りケア研修会) R8.2.9

研修会参加 62名(講師・事務局除く) アンケート回答 45名 アンケート返却率 72.6%

【問1】アンケート回答者(職種別人数)



【問2】今回の看取りケア研修会にどれくらい満足していますか。 (回答は1つ)



【問3】【問2】で、なぜそのように回答されたのか理由を教えてください。

【保健師】

- ・現場で苦労しながら看取りを支えている多職種の方たちの生の声を聞くことができた。
- ・なかなか学ぶ機会もなかったので。また、他施設の意見や多職種での目線で話を聞けたので。

【看護師】

- ・施設や在宅での看取りについて色々な事例を知ることができて良かったです。
- ・看取りについての取り組みが参考になった。
- ・2つ事例が学べて、それぞれの内容を知れたので良かった。もう少し話し合う時間が長ければありがたかった。
- ・多職種の方から具体的な話を聞くことができて、今の自分の立場から出来ることや、やるべきことを改めて考えることができたので。
- ・病院との違いが明確に分かり、施設の方が最期まで自分らしく過ごせるのかなと思った。
- ・様々な職種の方の内容や考えを知ることができた。
- ・病院と在宅での看取りは別物と感じた。在宅での看取りはある程度自由がある。食事制限なく本人の好きな物を食べたり飲んだりできるのは魅力だと感じた。
- ・多職種、施設と様々な立場での意見交換ができる良かったです。
- ・支援シートの活用（本人の意欲確認のため）、魔法の言葉の活用は利用者に寄り添うことに繋がると感じた。
- ・他施設の方法や取り組みを聞いて良かった。
- ・在宅での看取りについても非常に勉強になった。

【社会福祉士・医療ソーシャルワーカー】

- ・他の施設や職種の方と顔を合わせて直接やり取りできた。
- ・病院ではなく、在宅・施設で最期を迎えた方が家族と過ごす時間が長く取れるし、希望を叶えやすくなるのではないかと感じました。
- ・他施設の取り組みが知れたため。
- ・色々な立場の人の話が聞けて良いです。
- ・本人の思いを丁寧に聞き取り、寄り添い、ニーズを叶えている過程が素晴らしいと感じました。人生会議を考えるきっかけになりました。
- ・事例発表で、入所時から看取りについて話をされていたので、家族も自然と終末期について考えることができる。グループワークで、それぞれの立場で看取りについての取り組み方が違っていた。視点の違いがあり幅を感じた。職員の不安が大きいという話だったので、施設内での研修も必要かも。

【介護支援専門員】

- ・施設での看取りケアを聞いて大変勉強になった。
- ・事例発表がたいへん参考になりました。グループワークでは意見交換や情報交換ができる、ネットワーク作りにもなりました。
- ・いろんな考え方を確認できたので。
- ・参考になりました。在宅での看取りをするには医療・訪問看護等との連携が必須だと感じました。
- ・多職種の方と意見交換ができる、色々な角度から看取りケアについて考えることができ勉強になりました。
- ・他事業所の実践（ターミナルケア）が知れたのが良かった。グループワークで意見交換もできたのが良かった。
- ・和光園さんの看取りのパンフレット、支援シートはいいと思いました。
- ・今回、看取りについて今一度考えさせられました。支援シート等の活用をしてみたいと思います。
- ・施設での看取りの取り組み方について学べた。
- ・堅苦しくなく、聞きやすかったです。
- ・多職種で情報交換できた。
- ・もっと深い気がする。

【介護福祉士】

- ・色々な他職種の方と話ができるのは良かったですが、深くは話せていません。
- ・他の職種での対応の現状を話すことができた。
- ・事例発表の内容も良かった。他施設や多職種の話が聞けた。
- ・他事業者の取り組みが知れて良かった

【介護士】

- ・多職種と話す機会にもなったため。きっかけが大事だと思います。

【管理者】

- ・たんぽぽさんと和光園さんの発表が参考になりました。
- ・他施設の取り組みを知ることができたから。
- ・初めての看取りケアの研修だったのでとても勉強になった。

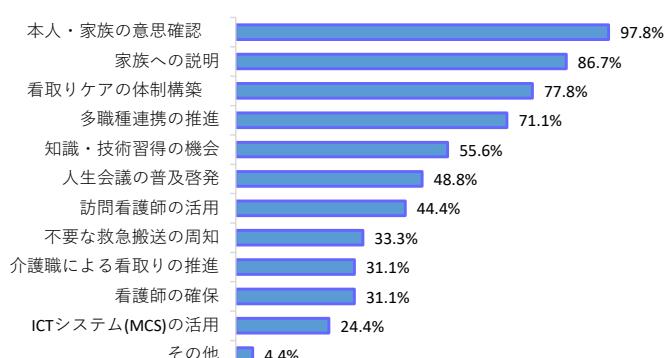
【事務職】

- ・老健での看取りは大変。医者（医師確保・訪問診療日の確保等）がいることで、今回、在宅での看取りの方が大変な部分を知って良かった。

【行政】

- ・様々な医療機関、介護事業者の意見を聞く機会となったから。
- ・事例報告やグループワークを通して、本人が最期をどのように迎えたいか他者が把握しておくことの必要性が分かり、ACPなどの取り組みの必要性を感じたから。
- ・看取りケアの現場の実際を知ることができる貴重な機会であった。グループワークでも多職種の意見を聞くことができ、施設での看取りの課題、在宅の看取りの課題など異なることもあるが本人の意思を尊重することが大切であり、元気なうちからACPを作ったり意思確認を行うことが大切であると改めて感じた。また、どの現場においても多職種連携は必須であるため、このように研修で顔の見える関係づくりを行うことも大切だと感じた。

【問4】今後、その人らしくを叶える在宅での看取りケアに取り組むためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答可)



その他の意見：ACP様式の活用。人材確保と環境整備。

【問5】今後、多職種連携研修会で取り上げて欲しいテーマや多職種が参加しやすい研修会の形式、多職種連携の課題等、自由にご意見をお聞かせください。（複数回答可）

【看護師】

- ・施設や介護士も慌てないよう、急変時、必要なこと、亡くなっていた時の判断等の救急搬送について（消防）。
- ・1グループに多職種でなく（ひとつひとつ同じ職種で）各職種の集まったグループで話し合い発表すると、意見交換も同じ立場ででき面白いかと思いますが。そもそも論点が違いますかね。

- ・宇佐の地域でエンディングノート活用をする啓蒙活動。
- ・在宅での課題、在宅医療での失敗談等。（インシデントやアクシデント等の事例を共有し各自が事故を防ぐ。これから在宅に入るスタッフへの教育となる。）
- ・ACPの方法やタイミング。

【社会福祉士・医療ソーシャルワーカー】

- ・業務時間外に開催してほしいです。
- ・今回の様な、内容・事例発表・グループワーク・グループワーク後の発表の形式が参加しやすいと感じました。
- ・医師、歯科医師、薬剤師の先生方が参加できるように、19時からの方が良いと思います。事例検討も良いと思います。

【介護支援専門員】

- ・在宅復帰支援。医療から在宅に繋げる連携のポイントや事例報告。

【管理者】

- ・自立支援の事例発表。

【事務職】

- ・精神の方の支援（通常サービスから看取りまで）。

【行政】

- ・今回の事例発表にあったような取り組みは素晴らしいましたが、一方で現実的には様々な壁があり、多くの施設で取り組むことの難しさを感じました。利用者、家族等に施設の特色が広く伝わると、自分が生活したい場所の選択をしやすくなるのではないかと思いました。